

令和5年1月5日

決意も新たに三学期

南九州市立浮辺小学校
校長 石川 雅実

三学期は本年度のまとめの学期です。そして、進学、進級と新年度に向けての準備の学期です。本校は閉校を迎える大切な締めくくりの学期でもあります。三学期始業式に、子どもたち一人一人が新年の目標や計画を立てて登校してくることでしょう。それぞれの目標実現に向けて、今後も努力を続けてほしいと思います。

努力の継続と言葉にするのは簡単ですが、人間はそんなに強い存在ではありません。誰かの支えが必要です。時には挫折を味わい、目標変更を余儀なくされます。そんなときに、子どもに寄り添い、必要な支援や指導を行う大人の存在が欠かせません。教職員や保護者、地域の方々、大人と呼ばれる人々の連携とサポートが必要不可欠です。

学校と家庭、地域の三者が一体となって、子どもたちのよりよき成長のために今後も深く関わっていきましょう。それぞれの立場で何ができるかを常に考え、未来を見据えた教育活動の展開と改善に鋭意努力していきましょう。

令和5年1月19日

舞い上がる凧のように

南九州市立浮辺小学校
校長 石川 雅実

冬休みに凧の製作を課題の一つとし、最後の凧あげ大会を各学年で実施しました。子どもたちは、寒い中ではありましたが、広い校庭で元気に凧あげを楽しむことができました。閉校のよい思い出になったと思います。また、正月の伝統的な遊びを通して、日本文化のよさにもふれることができました。保護者の皆様、凧の製作、低学年では、凧あげへの御協力、誠にありがとうございました。

無邪気に校庭を走り回る子どもたちの姿を見ながら、かつてイギリスの首相が語った「凧がいちばん高く上がるのは、風に向かっていくときである。」という言葉がふと思い出しました。

コロナ禍、ウクライナ戦争、物価高等で逆風吹き荒れる昨今です。一人の力では状況を変えることは不可能です。それでも、自分が置かれている状況下で、小さくても確かな方策を見出し、精一杯それを行い、僅かでも改善に結びつけていきたいと思いました。子どもたちの笑顔と舞い上がる凧のように、明日への希望だけは、明るく、高く持ち続けたいと思います。